

増補

■ 日本刀物語

増補



日本刀物語

福永
醉劍
著

雄山閣

著者略歴

医学博士、前熊本大学助教授、
現朝霞基地診療所長、著書として
「刀工遺址の研究」、「日向刀
工伝」、「日本刀名工伝」「薩摩
の刀と鐔」、「名刀と名将」、「親
鸞の現世利益観」、「諸県寺院
史」、「飯野郷土史」など。



日本名刀物語

¥600

昭和45年1月20日 印刷

昭和45年1月25日 発行

著者 福永 醇 剣

発行者 長坂 一 雄

発行所 雄山閣出版株式会社

東京都千代田区富士見町2の6

電話代表(262) 3232番・振替東京1685番

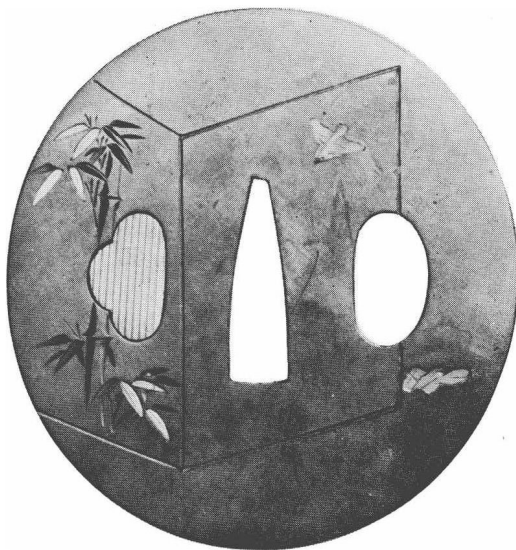
印刷・亜細亜印刷株式会社

製本・協栄製本株式会社

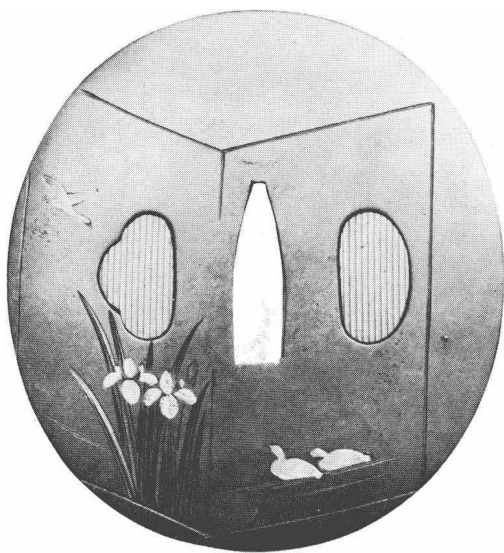
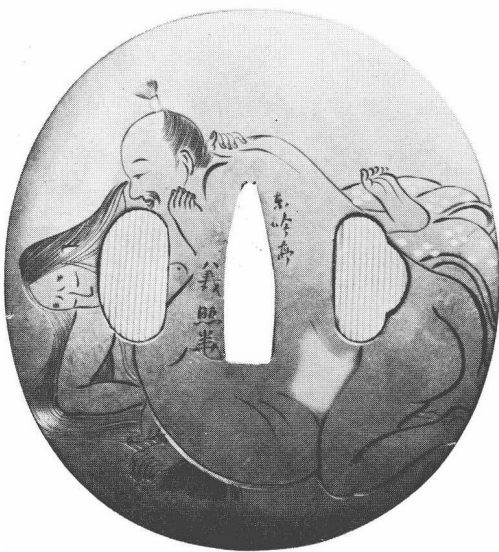
(乱丁落丁はお取替え致します)

佐藤義照の大小揃い鐺

これは小刀の鐺で、赤銅磨地に、表は男女秘戯の図、裏は双曲屏風に竹と雀を毛彫りと片切彫りをもって描き、それに金銀色絵を施している。銘は「東吟亭 義照（花押）」と切る。



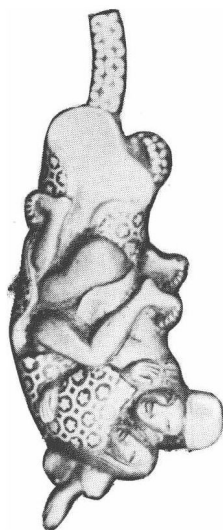
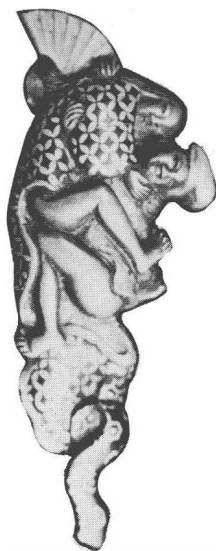
これは大刀の鐔で、表は同じく男女秘戯の図であるが、裏は双曲屏風に菖蒲と水鳥を描く。

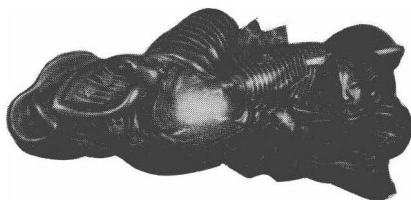
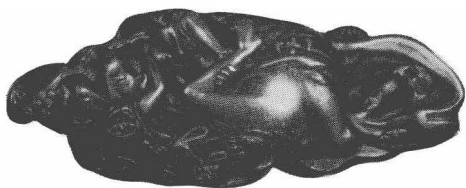
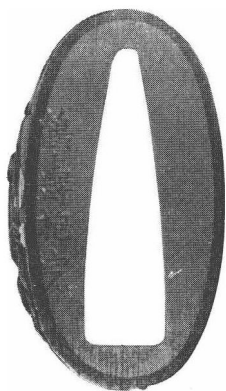
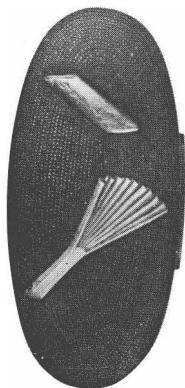




後藤派の筭・小柄・目貫

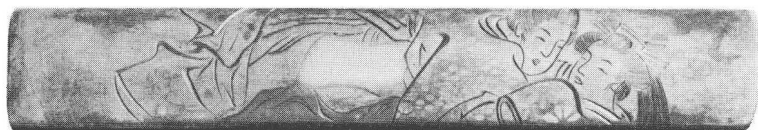
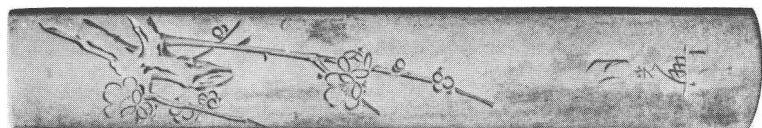
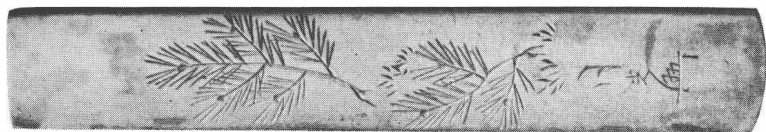
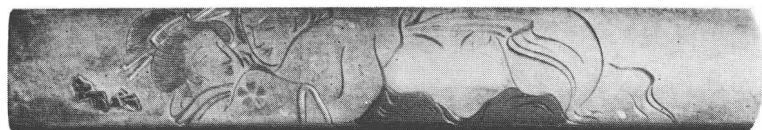
筭と小柄は赤銅魚子地なまこに
男女秘戯の図、高彫り金
銀色絵。目貫(拡大)は赤
銅高彫り、金銀色絵。





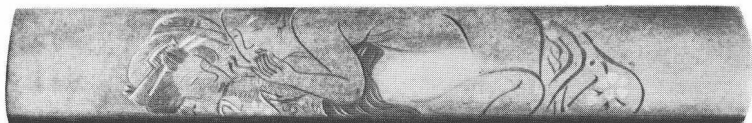
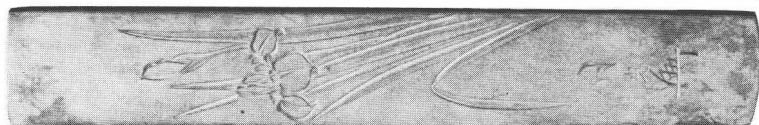
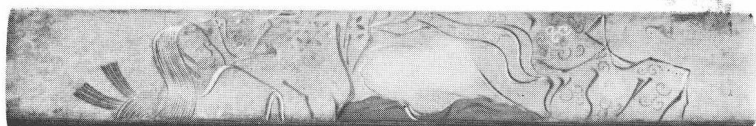
石黒政広の好色小道具

小柄は孝謙女帝と道鏡、縁は高師直とまさきの前、目貫は物部左衛門と薄雪および侍女間垣の図である。

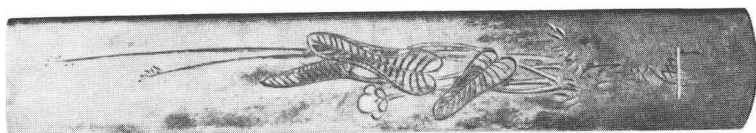
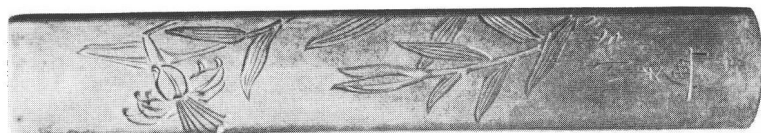


十二ヵ月好色小柄 一月～三月

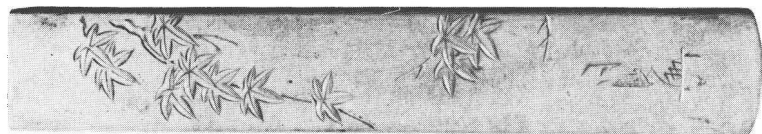
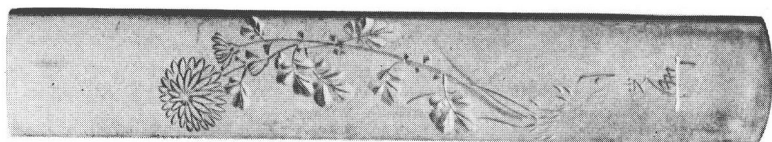
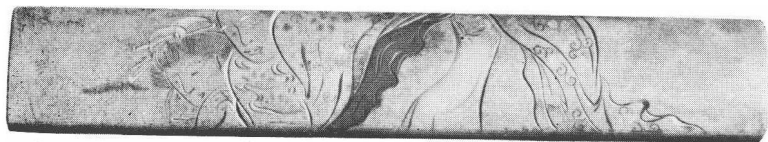
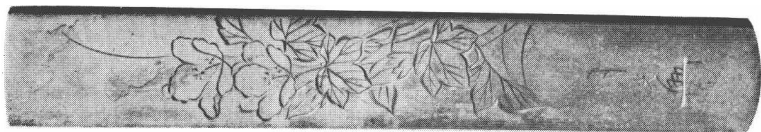
四分一地、表は金銀・緋金の色絵、裏には色絵なし。



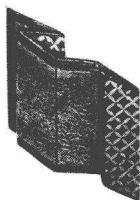
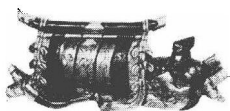
十二ヵ月好色小柄 四月～六月



十二ヵ月好色小柄 七月～九月

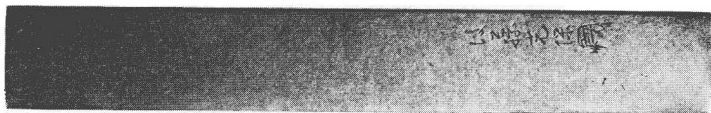
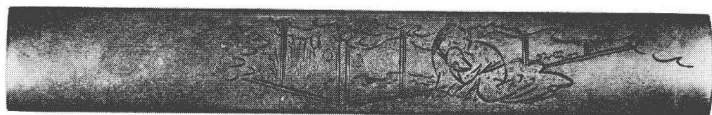


十二月好色小柄 十月~十二月



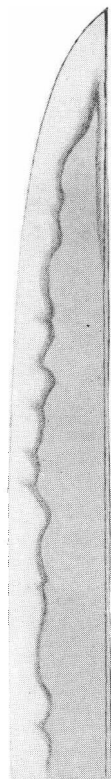
後藤の小柄と目貫

小柄は赤銅魚子地に秘戯の図、金色絵。目貫は几帳の陰で秘戯の図と六曲屏風、金色絵と毛彫り。



後藤光保の小柄

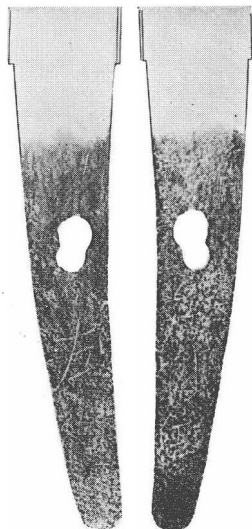
四分一地、毛彫り、フスマの外で耳をそばだてる侍女の図。フスマの外で聞き耳をたてている図は艶本によくあるところ、中で何が行なわれているかは、見る人の想像にまかせるという趣向。



女国重の短刀

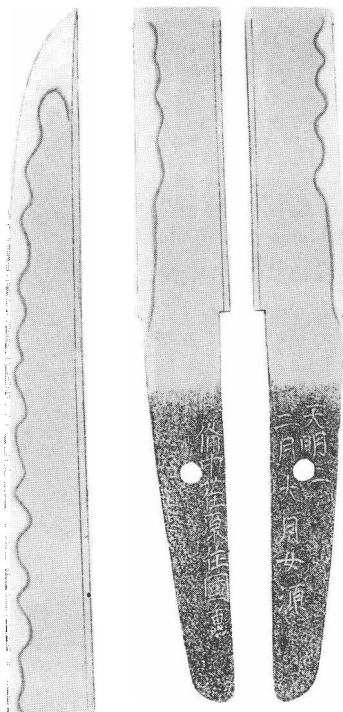
銘
天明二、二月大月女源
備中在原住国重

(大月綾賀氏蔵)



親の仇をうった小夜左文字の短刀

(重要美術品)



濡れ衣をきせられた吉広の刀

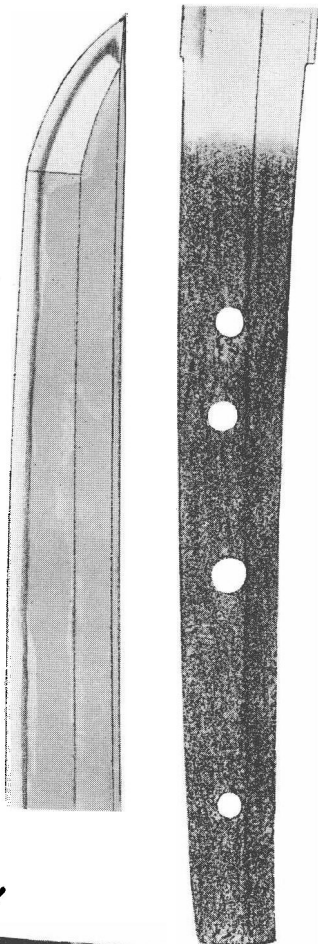


女国重の像―臥雲子画 三好亭賛

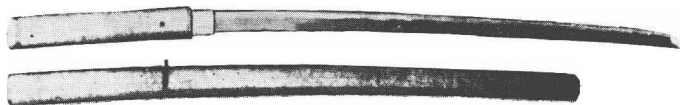
(大月綾賀氏蔵)



坂本竜馬を斬った刀 保昌作
(佐伯理一郎氏蔵)



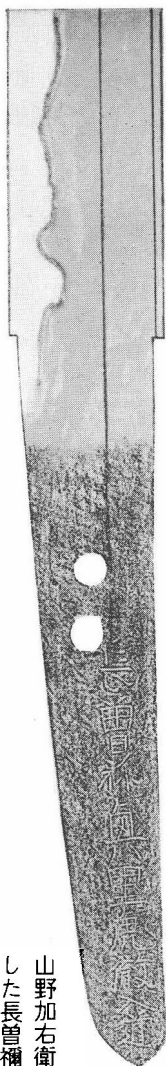
坂本竜馬の刀
上段の鞘の↓印は斬り込みの痕





寛文元年五月十六日

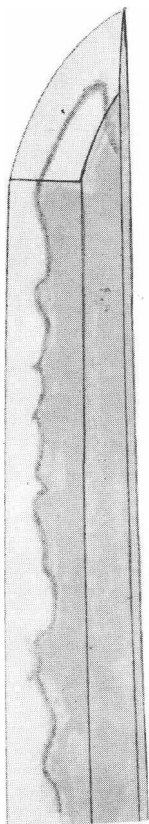
山野加右衛門尉永盛
貳ッ胴切落



長曾祢直興

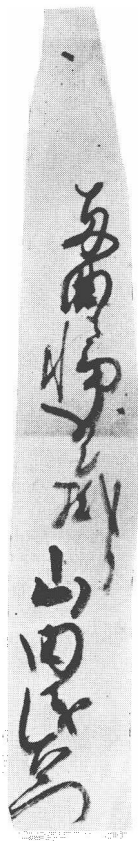
山野加右衛門が二つ胴を試し斬り
した長曾祢虎徹の脇差

試し銘は金象眼（浜田晃僖氏蔵）

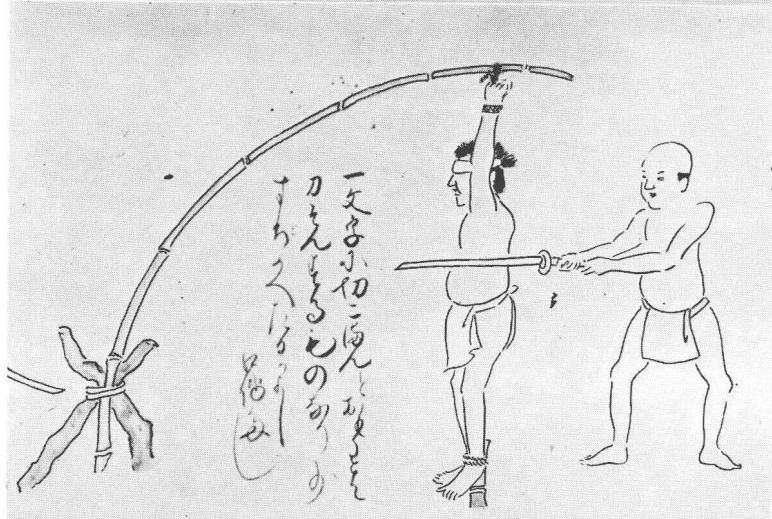
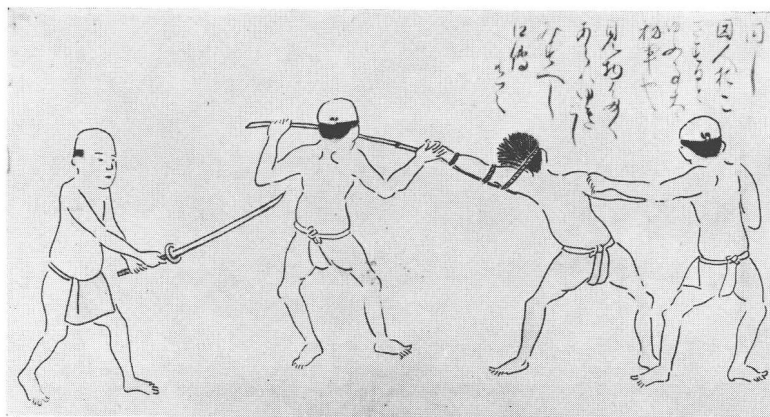


浅右衛門（二世）の試し札

「両曲輪少し掛申候、山田浅右衛
門」とある。腰骨の所を斬ったが
少し刃がかかったという意味であ
る。



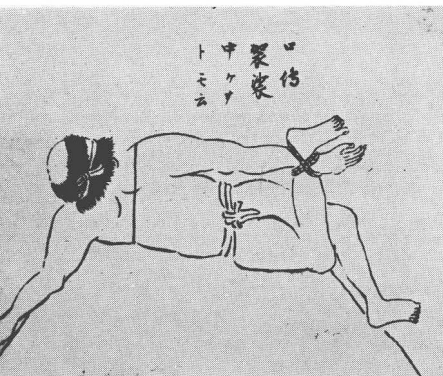
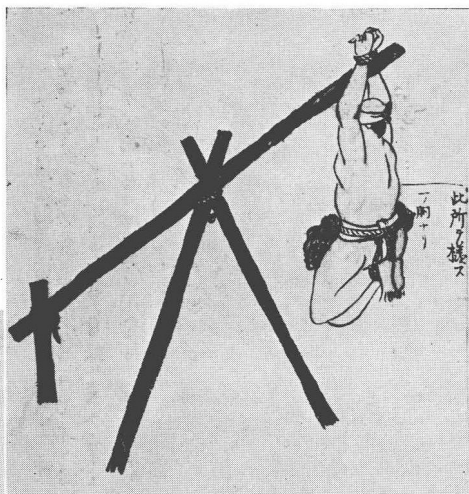
山田浅右衛門



中川左平太の試し斬り
秘伝書

題名を欠くが、中川左平太より朝比奈藤左衛門、松本長太夫、芦沢源左衛門へと伝授したもので、元禄十四年極月の奥書がある。上図はケサ斬り、下図は払い胴の法を示す。

山田浅右衛門の
 試し斬り秘伝書
 当流居物土段撃切図と題
 し、上図は中ケサ、下図
 は大ケサの斬り方を示す



谷大膳亮の試
 し斬り秘伝書
 兩段書と題し、谷大膳亮
 より中川左平太、宇津木
 八左衛門、渡辺三之右衛
 門、猪谷忠藏、猪谷唯四
 郎へと伝授したもので、
 宝永三年二月の奥書があ
 る。上図は吊し胴、下図
 は槍試しの法を示す。